

令和6年度第1回総合教育会議 次第

日時：令和7年1月30日(木)

午後4時～

場所：福社会館2階201号室

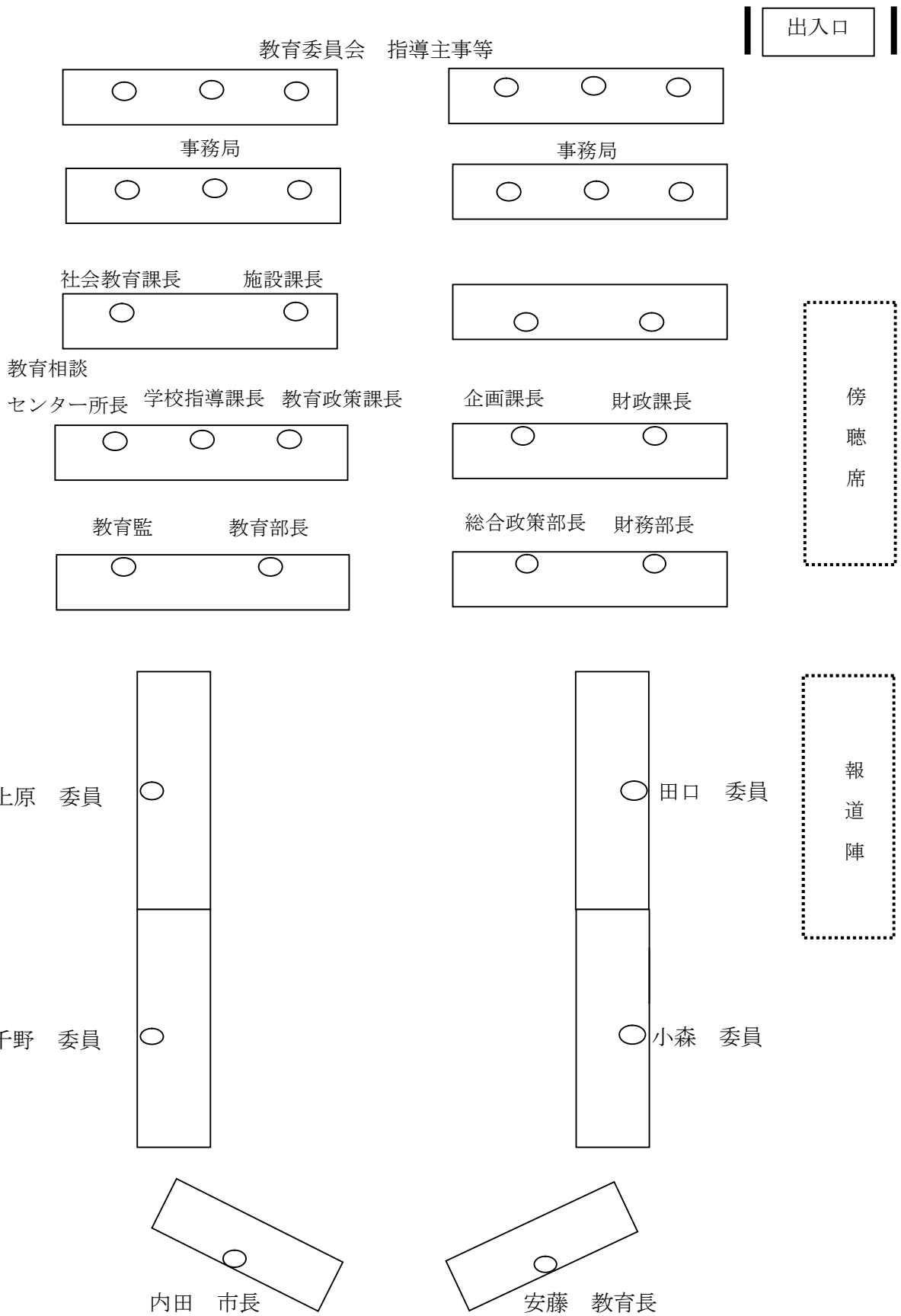
1 議 題

- (1) 「岡崎市32人学級プロジェクト」における対象学年の再検討について 資料1

2 報 告

- (1) 「岡崎GIGAスクール2.0」構想について 資料2
- (2) 岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方「3段階プラン」(岡崎モデル)の進捗状況について 資料3
- (3) 校内フリースクールF組・夜間学級S組の進捗状況について 資料4
- (4) 未来の教室整備(大規模改修工事における普通教室の整備)の実施状況について 資料5

令和6年度第1回総合教育会議 配席図



「岡崎市32人学級プロジェクト」における対象学年の再検討について

1 令和4年度試験～令和6年度までの受験者数等の推移表

	R5年度採用	R6年度採用	R7年度採用
実施学年	1年生	1・2年生	1～3年生
必要数	10	14	20
新規必要数	10	6	10
受験者数	21	12	11
倍率	2.1	2.0	1.1
県教採倍率	2.0	2.1	2.5

※令和7年度採用の新規必要数は、令和6年12月1日現在の児童見込み数から算出

2 今後の教員確保の課題

- ・今後の受験者数を予測すると、当面は10名強の受験者数で推移する可能性が高い。
- ・3年生へ拡充とした場合、受験者11名のうち、10名が合格となり、倍率が1.1倍となることで競争率が下がり、教員の質の低下が懸念される。
- ・受験辞退者や合格辞退者が出た場合、欠員が生じる。さらには、本市試験と同時期の秋に教員採用試験の二次募集を行う自治体が出てきており、数の確保も難しくなりつつある。
- ・R8年度採用年から、3年の任期満了による退職者も発生し、さらに新規必要数が増えることが予想される。この制度を上学年まで拡充し不足分を補うには、市の正規雇用を任用する必要がある。

3 令和7年度以降の対応について

(1) 今後段階的に拡充した場合の予想数

	R8年度採用	R9年度採用	R10年度採用
実施学年	1～4年生	1～5年生	1～6年生
予想必要数	31	41	48
予想新規必要数	24	20	27
予想受験者数	14	14	14
予想不足数	10以上	6以上	13以上

※予想必要数は、令和4年8月発行「岡崎市30人学級実施検討会報告書」より

- ・実施学年を拡充していくと、20名から30名近くの新規採用合格者が必要となり、受験予定者数でさえ、必要数を満たすことができないことが予想される。
- ・また、県と国の施策により、小学校全学年が35人学級となった。35人学級で国定数の教員配置と、32人学級で市任期付教員配置の間で、児童数調査を行う度に市任期付教員が必要な学校、不要な学校が変わり、必要数の算出が非常に難しいことがわかってきた。実施学年が増えれば採用予定数も多くなり、必要数の算出が難しくなる。

(2) 今後の方針

- ・令和7年度採用を1・2年生とした場合、右のように、新規必要数は4名に抑えることができる。結果、倍率が2.75倍となり、教員の質の担保と、数の確保ができる。
- ・質と数の確保を前提とした32人学級を維持していくため、配置の拡充を一旦小学校1・2年生で留め、県や国の動向を注視しながら、次の展開を検討していく。

	R7年度採用
実施学年	1・2年生
必要数	14
新規必要数	4
受験者数	11
倍率	2.75

【参考 施策の成果と今年度のリクルーティング活動実績について】

(1) 施策の成果

- ・学級数が増えることで、1クラスあたりの人数が減ると児童一人一人に目が行き届きやすくなる。児童一人当たりに対しての声掛け時間が増えることで、児童が安心して落ち着いて学校生活が送れていることにつながっている。(教員)
- ・担任1人当たりの受けもつ児童数が少なくなることで、児童個人の状況報告も、以前より細かく行える。このため、学年主任や役職が児童の状況をより細かくつかむことができ、担任へのアドバイス等に生かすことができています。(教員)
- ・1クラスの人数が少なくなり、子供へ接する単位時間(1人当たり)が増えることで、子供一人一人に目をかけてもらえる時間が多くなりありがたい。(保護者)

(2) 令和6年度大学訪問(前年度比:訪問3校増(県外大学1校増)、訪問回数1回増)

- ・実施時期 令和6年4月～10月
- ・訪問大学 … 14校(県内大学 … 10校、県外大学 … 4校)
- ・訪問回数(のべ) … 18回

(3) その他の広報活動

<広告物の作成>

- ・受験案内
- ・広報ポスター
- ・広報パンフレット

<広報誌・メディア関係>

- ・岡崎市ホームページに掲載(令和4年3月～)
 - ・市政だより「OKAZAKI」6月号に募集案内掲載
 - ・「求人受付NAVI」に掲載(令和6年8月～)
- 全国149大学へ求人情報を発信



左 広報ポスター

右 広報パンフレット

(1) 令和2～6年度岡崎版GIGAスクール構想（GIGA第1期）の振り返り

目 標

一人一人が確実に自分の端末を使いこなすための**公教育最先端の活用環境**を構築することで、本市の**多様性のある全ての子供たちが**、自らの特性を生かし、**個別最適化された学習**に取り組めるようにし、Society5.0 時代をたくましく生き抜く資質・能力を育成する。



方 針

「ICT環境整備」

- 令和2年度中に**全67校の校内ネットワーク（有線+無線）**の整備を目指す。
- 一定学年以上で個人に貸与し、「**Myタブレット**」として**フル活用**する。
- ICT支援員**の拡充を通して、1人1台環境の円滑な運用をサポートする。

「学び方改革」

- **一斉授業からの脱却**と、学習者主体の授業への転換。
- 「**岡崎市プログラミング学習**」（実施中）をはじめとした、ICT活用授業の推進。
- 「Myタブレット」を生かした「**子供eラーニング**」（家庭学習との連携）の研究。

「働き方改革」

- 「**Okazakiスマートワーク**」の推進。（職場外アクセス機能、高速エコプリンタ等）
- 定例校長会議や研究発表会、教育研究大会での**ペーパーレス化**。（実施済）
- eラーニングによる研修**やMicrosoftクラウドを活用した協働的な業務の推進。

成 果（授業・校務においてデジタル化が着実に進展）

① 授業等におけるタブレット端末活用の日常化

- ・中学校の生徒が「タブレットをほぼ毎日授業で使っている」と回答する割合が**41.5%**。（**全国7位の水準**）※都道府県の平均値と比較
《令和6年度 全国学力学習状況調査の結果より》
- ・授業中にタブレット端末を使い、自分の意見を書込むアプリケーションの起動回数が、R3～6年度の3年間で**約6倍に増加**。
《授業支援アプリ「School Tact」の活用ログより》

② 「校務の情報化」の進展

- ・職員間の情報共有や連絡について「クラウドサービスを取り入れている」と回答した小中学校の割合が**91.0%**。（県内自治体の平均76.2%）
《「R6_GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の結果より》
- ・校長会議で教育委員会が発出する資料の完全デジタル化により**年間約8万枚以上の紙を削減**。《令和6年度の実績値より》



現状・課題（次期GIGAスクール構想に向け端末の更新が必要）

目
標

- GIGA第1期に培ったICT活用・運用のノウハウを生かし、子供たちの「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一層の充実を図り、子供たちの学びを保障する令和の日本型教育を実現する。
- いつでも、どこでもデータを安全・安心に利用できる環境づくりや、各種教育データの連携による新たな価値の創造を目指した教育DXを推進する。

方
針

ICT環境整備



- A) 子供の学びのツールとなった一人一台端末を持続的に更新する。◀ 拡充
- B) どこからでも安全に使用できる統合型校務支援システムを整備する。◀ 拡充
- C) 授業の情報共有と情報発信のため、一人一台端末と連携する電子黒板を整備する。◀ 拡充

学び方のDX



- D) デジタル教材の利点を生かした授業を推進する。◀ 拡充
- E) インターネット等の情報を正しく判断し、適切に活用できる情報活用能力を育成する。◀ 拡充

校務のDX

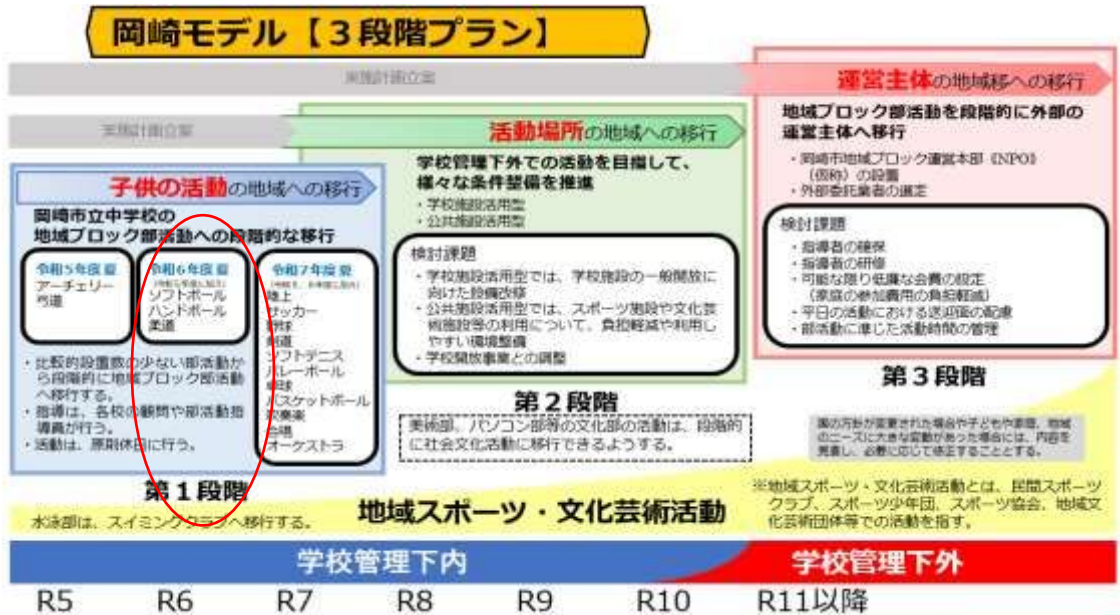


- F) 成績等や学級集団心理調査等の情報を集約し、校務の負担軽減を推進する。◀ 新規
- G) 教師一人一人の資質・能力を伸ばすeラーニング研修を実施する。◀ 拡充
- H) 思考を広げたり、整理したりするため、生成AIを活用する。◀ 新規
- I) 校務情報をAIで分析し、子供支援の可能性を研究する。◀ 新規

岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方「3段階プラン」（岡崎モデル）の進捗状況について（報告）

岡崎市教育委員会

1 「岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方「3段階プラン」（岡崎モデル）」



・現在は、第1段階の「子供の活動の地域への移行」の2年目を迎えている。

2 令和6年度の部活動地域移行の周知について

時 期	場 所	周知主体	対 象	方 法
4月初旬	定例校長会議（4月） 活動の拠点校について	各小中学校長	全教職員、生徒、保護者	口頭、文書
7月中旬	定例校長会議（7月） 地域ブロック部活動のチーム名について	各小中学校長	全教職員、生徒、保護者	口頭、文書
8月下旬	定例校長会議（8月） 小学校職員兼職兼業について	各小中学校長	全教職員	口頭、文書

- ・「3段階プラン」について、必要などころから順序よく計画的に周知することができた。
- ・各小中学校長からはいくつか質問が寄せられたが、市民からはほとんどなく、円滑に周知することができたと考える。

3 令和6年度夏から開始した地域ブロック部活動の現状について

	柔道	ソフトボール	ハンドボール
活動拠点校	矢作中学校・甲山中学校	葵中学校・矢作北中学校 竜海中学校	美川中学校・葵中学校 竜南中学校・六ツ美中学校
他ブロックからの参加生徒	3名（常磐1名、六ツ美北1名、美川1名）	2名（六ツ美1名、北1名）	8名（竜海4名、北1名、南1名、翔南1名、福岡1名）

- ・（子どもの声）「目標としている同級生と一緒に練習できるのでわくわくする」「ずっとやりたかったハンドボールを部活動としてやれるから嬉しい」
- ・（保護者の声）「今後は公共交通機関を使って参加できるようにしたい」「心配でしたが、子どもが楽しんで新しい友達もできたので感謝しています」
- ・（指導者の声）「参加人数が増え、活動場所が手狭になっているため、公共施設の利用が助かります」「複数校の生徒と一緒に活動することで、温かい雰囲気が生まれています」

4 地域ブロック部活動のチーム名について

(1)	1ブロック制 (弓道、アーチェリー、ハンドボール女、柔道女)・・・岡崎 ALL (オール)
(2)	2ブロック制 (柔道男、ホークストラ、合唱・音楽)
①	甲山、常磐、竜海、美川、東海、竜南、額田、河合、南、福岡、翔南・・・岡崎 EAST (イースト)
②	六ツ美、六ツ美北、矢作、矢作北、葵、城北、新香山、北・・・岡崎 WEST (ウエスト)
(3)	4ブロック制 (ハンドボール男、ソフトボール、吹奏楽)
①	甲山、常磐、竜海、美川・・・・・・・・・・岡崎 CENTRAL (セントラル)
②	東海、竜南、額田、河合、南、福岡、翔南・・・岡崎 SOUTH (サウス)
③	六ツ美、六ツ美北、矢作、矢作北・・・・・・・・・・岡崎 WEST
④	葵、城北、岩津、新香山、北・・・・・・・・・・岡崎 NORTH (ノース)
(4)	8ブロック制 (陸上、ソフトテニス、卓球、バレーボール、バスケットボール、剣道、野球、サッカー)
①	甲山、常磐・・・・・・・・・・岡崎 CENTRAL (セントラル) 省略：岡崎C
②	竜海、美川・・・・・・・・・・岡崎竜美 (タツミ) 省略：岡崎T
③	東海、竜南、額田、河合・・・・・・・・・・岡崎 EAST 省略：岡崎E
④	南、福岡、翔南・・・・・・・・・・岡崎 SOUTH 省略：岡崎S
⑤	六ツ美、六ツ美北・・・・・・・・・・岡崎 MUTSUMI (ムツミ) 省略：岡崎M
⑥	矢作、矢作北・・・・・・・・・・岡崎 WEST 省略：岡崎W
⑦	葵、城北・・・・・・・・・・岡崎葵城 (キジョウ) 省略：岡崎K
⑧	岩津、新香山、北・・・・・・・・・・岡崎 NORTH 省略：岡崎N

5 平日の地域ブロック部活動の活動状況について

	柔道	ソフトボール	ハンドボール	弓道
時 間	毎週水曜日、木曜日 17時から19時	毎週水曜日、金曜日 17時から18時半	毎週火曜日、水曜日 18時から19時半	毎週水曜日 18時から20時
活動 場所	活動拠点校 ・矢作中学校	活動拠点校 ・矢作北中学校	活動拠点校 ・六ツ美中学校	公共施設 ・中総弓道場
参加者	1、2年生男子女子 約30名	1、2年生女子 約25名	1、2年生男子 約25名	1、2年生男子女子 約35名

- ・(子どもの声)「ナイター設備を使用した中で活動ができるので、特別感がある」「大会でしか使えない施設を使用して活動できるので、とてもいい雰囲気の中で練習ができています」
- ・(部活動指導員の声)「ブロックでの活動となり、活動する人数が増えたので、市の施設を利用できるといい」「協会としても、可能な限り協力していきたい」

6 部活動地域移行推進委員会について

校長会と教育委員会が主体となり、よりよい部活動の地域移行の在り方を議論する場として、部活動地域移行推進委員会を行った。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
日 時	6月3日(月) 14時から 16時30分	7月1日(月) 14時から 16時30分	7月18日(木) 14時から 16時30分	9月2日(月) 14時から 16時30分	11月11日(月) 14時から 16時30分
会 場	岡崎市役所分館 3階大会議室	福祉会館 202号室	岡崎市役所分館 3階大会議室	岡崎市役所分館 3階大会議室	市役所西庁舎 702号室
構成員	12人 校長会役職者(校長6人)、現職研修委員会役職者(校長2名)、教育委員会(4名)				

- ・小学校の今後の部活動、小学校の教職員の兼職兼業、ブロック部活動の活動場所などについて多岐にわたる話し合いが行われ、校長会や現場の先生方に今後の方向性を示した。

報告事項 「校内フリースクール F 組・夜間学級 S 組の進捗状況について」

[校内フリースクール F 組]

1 校内フリースクール F 組の現状

○校内フリースクール設置校数の推移

令和 2 年度：中学校 3 校スタート⇒令和 5 年度：20 校 ※全中学校設置完了

令和 6 年度：小学校 3 校スタート（六名小、井田小、細川小）

現在、市内全中学校の F 組を活用している生徒は、300 名を超える。

（F 組設置校の全児童生徒の約 2 %）

2 F 組設置の成果

○中学校の長期欠席者の新規発生率等の抑制

- ・全国的に、長期欠席者が急増している中、本市は出現率が減少。（前年度比：0.3%減）
- ・公立中学校における国・県と本市との出現率の差が広がっている。
- ・長期欠席者に対する新規長期欠席者の割合が減少。（R4：43.2% ⇒ R5：33.4%）

○初期対応、自立支援における成果

- ・R 6 年 12 月末の段階では、半数を超える生徒が週 3 日以上登校している。

＜校内フリースクール F 組活用児童生徒出席状況＞

項目	割合	項目	割合
◎：教室に完全復帰	2. 1 %	W2：週 2 日の登校	7. 5 %
○：ほぼ皆出席	42. 9 %	W1：週 1 日の登校	10. 3 %
W4：週 4 日の登校	4. 6 %	WR：不定期登校	16. 5 %
W3：週 3 日の登校	8. 2 %	AS：夕方・夜間登校	2. 1 %
		W0：全く登校できない	4. 9 %
		Z：その他	1. 0 %

○未然防止における成果

- ・F 組の理念が職員へ浸透し、学校全体で子供を温かく見守れるようになってきている。

＜F 組の理念＞

- ①適応するのは子供ではなく学校である ②多様性を受け入れられる学級にする
- ③いつでも子供たちを温かく迎える体制を整える ④通常学級と同じ、1 つの学級として扱う
- ⑤教室復帰ではなく社会的自立を目指す

- ・生徒の変容につながる支援のあり方を間近で見ることによる教員の意識改革

→通常学級での支援のあり方の変化 →「新たな一人を生まない」学校・学級への変化

3 今後の長期欠席対策の取組

- F 組を核とした長期欠席対策の継続。小学校の長期欠席児童への支援の強化。

中学校 20 校継続＋小学校 3 校継続＋新規校

- 引きこもりなど、学校とつながっていない児童生徒への支援。

夜間学級 S 組の継続 ＋ SSW や登校支援員等の支援の強化

- 小中学校全教職員への F 組の理念の浸透及び支援のあり方。

初任者研修や授業力アップセミナー等、各種研修の充実

[夜間学級 S 組]**1 背景・課題**

○文科省「令和 5 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題調査」
(全国値結果)

- ・ 90 日以上欠席している不登校児童生徒 約 55 %
うち、出席日数 0 日は約 3 % 出席日数 1 ～ 10 日は 7.4 %
- ・ 学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けていない不登校児童生徒 38.8 %

2 S 組の現状

○夜間学級 S 組設置校

甲山中 竜海中 矢作中 新香山中 六ツ美北中

○開室時間等

週 1 回 2 時間程度 (17 時～19 時)

S 組支援員配置 (F 組支援員、大学生等)

3 S 組設置の成果

○自立支援における成果

A 中学校⇒設置以降、8 人の生徒が活用。

F 組につながった生徒が 2 人、定期的に S 組を利用できる生徒が 4 人。
安心して教員や支援員と話したり、相談や支援を受けたりすることがで
きる居場所があることが生徒を動かす要因になっている。

B 中学校⇒設置以降、2 人の生徒が活用。

どちらの生徒も、毎週 S 組に登校している。2 名のうち、1 名は F 組につ
ながり、他方 1 名は、他の日も夕方に登校することができるようになって
きている。言葉数も少なかったが、少しずつ明るくコミュニケーションが
取れるようになり、当該生徒も S 組での時間を楽しみにしている。担任と
の信頼関係を深めながら、学校に登校するサイクルの確立を目指している。

C 中学校⇒設置以降、3 人の生徒が利用。

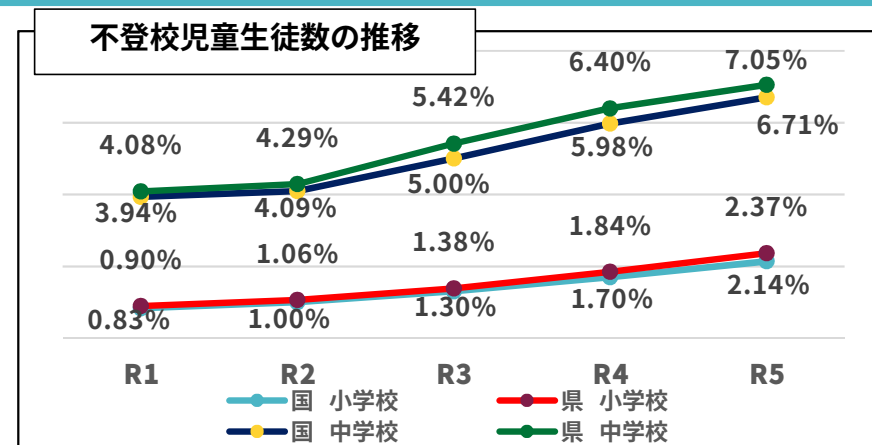
どの生徒も、毎週 S 組に登校している。うち 2 名は、昨年度ほぼ登校でき
ていない生徒であり、S 組での活動を通して、少しずつ登校への意欲が高
まってきている。S 組では、個別の支援と合わせて、3 人でコミュニケー
ションを取る時間を作りながら、人との関わりが広がっていくように支援
している。

<背景・課題>

- 多様な子供一人一人の理解に努め、その可能性や能力を伸ばすことが必要。
- 教室復帰だけでなく社会的な自立を目指し、社会で生きる力を育むことで、将来、**子供が幸せな人生を送ることができるようにすることが必要。**
- 全国的な不登校児童生徒数の増加（約34万6千人）。11年連続の増加。
社会問題となっており、本市においても**最重要課題。**
- 小学校の不登校児童生徒の増加が顕著。

R 4、R 5 年度の全国の不登校児童生徒の増加率の比較

小学校不登校増加率（124%）＞中学校不登校増加率（111%）



※児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題調査（文部科学省）の結果より

< F 組の成果 >

○中学校の長期欠席者の新規発生率等の抑制

→校内フリースクールの理念の浸透が図られ、R 5 年度中学校の不登校児童生徒**出現率の減少**。（前年度比 0. 3 % 減）

→長期欠席者における新規者の割合

R 4 年度：4 3. 2 % R 5 年度：3 3. 4 %

○初期対応・自立支援での成果

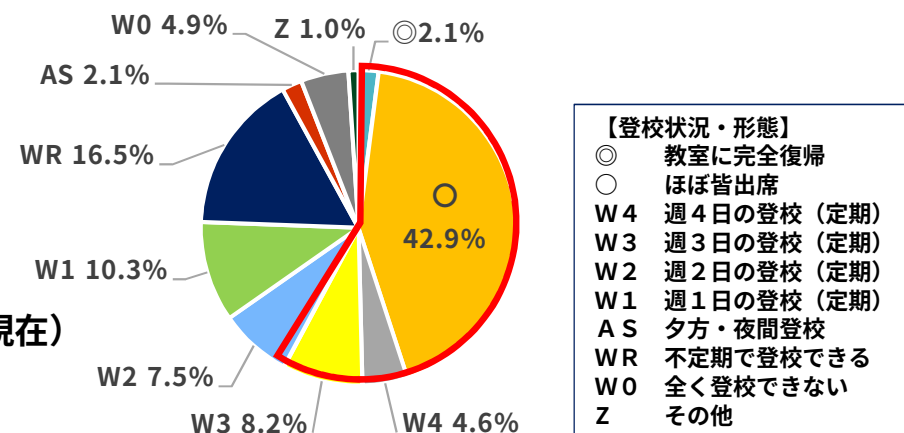
→市内全中学校の F 組を活用している生徒は、300 名を超える。

→F 組活用生徒のうち、半数を超える生徒が週 3 日以上登校。（R6.12月末現在）

○未然防止での成果（F 組の理念の浸透）

→生徒の変容につながる F 組での支援のあり方を見ることによる教員の意識改革

校内フリースクール活用児童生徒出席状況（R6.12月）



<今後の長期欠席対策の取組>

○ F 組を核とした長期欠席対策の継続。とりわけ増加している**小学校の長期欠席児童への支援の強化。**

R6年度 F 組設置校：中学校 2 0 校、小学校 3 校新規 ⇒ R7年度設置校：中学校 2 0 校継続、小学校 3 校継続＋新規校

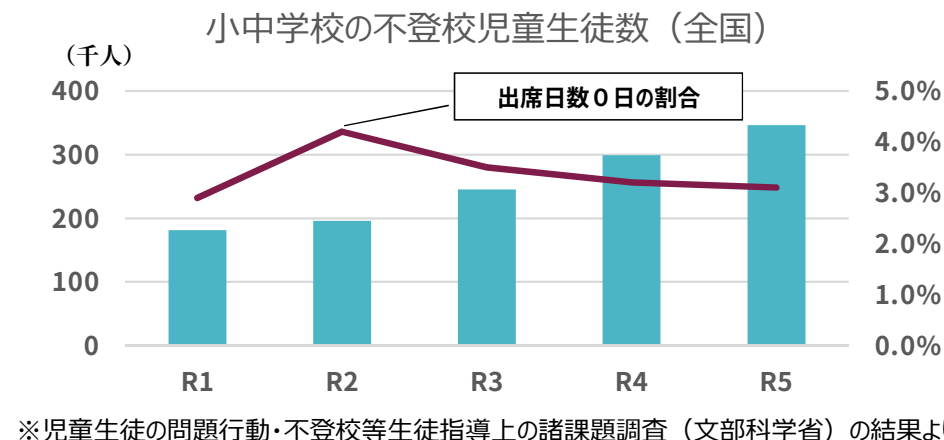
○引きこもりなど、**学校とつながっていない児童生徒への支援。**

○小中学校全教職員への**F 組の理念の浸透及び支援の在り方。**



<背景・課題>

- 多様な子供一人一人の理解に努め、その可能性や能力を伸ばすことが必要。
- 全国的な不登校児童生徒の増加（約34万6千人）。
不登校児童生徒のうち90日以上欠席した児童生徒の割合は55.0%。
※うち出席日数が0日は3.1%　うち出席日数が1～10日は7.4%。
- 学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けていない不登校児童生徒の割合は38.8%。（学校内の専門的な相談・指導等とは、養護教諭、SC等）
- 「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」において多様な学びの場、居場所の確保の必要性が明記。



<内 容>

- 他の児童生徒が学校にいる時間帯は登校できないが、夕刻以降であれば登校できる児童生徒や、なかなか家から出られない状況にある児童生徒が、学校内において、自分にあったペースで学習したり、教員とコミュニケーションを図ったりすることで、社会的な自立をめざす。

「S組」

- ・学校の核となる指導力のある担任と校内フリースクール支援員の温かな支援により、人と関わることのよさを感じる。
- ・週に1回2時間程度開室するなど、在籍する児童生徒の実態に合わせて運営。
- ・開室時間は、おおむね当該学校の終業後から午後7時。
- ・昼間に外出したり、人と関わったりする機会が少ない児童生徒の利用が想定される。職員との関係作り、体験活動、運動など、心身の充実感が得られる活動を多く取り入れる。

「F組」

ハートピア
岡崎

在籍学級

<成果>

<R6年度設置校のA中学校>

- 活用者8人
F組につながった生徒2人
定期的に利用できる生徒4人
※安心して教員と話したり、相談や支援を受けたりすることができる「居場所」が学校にあることが生徒を動かす要因に

「S組」のSは、「夜空に輝く（STAR）」の意味。「S組」で学ぶ児童生徒が、夜空にきらめく星のように、より輝けるための支援を！！



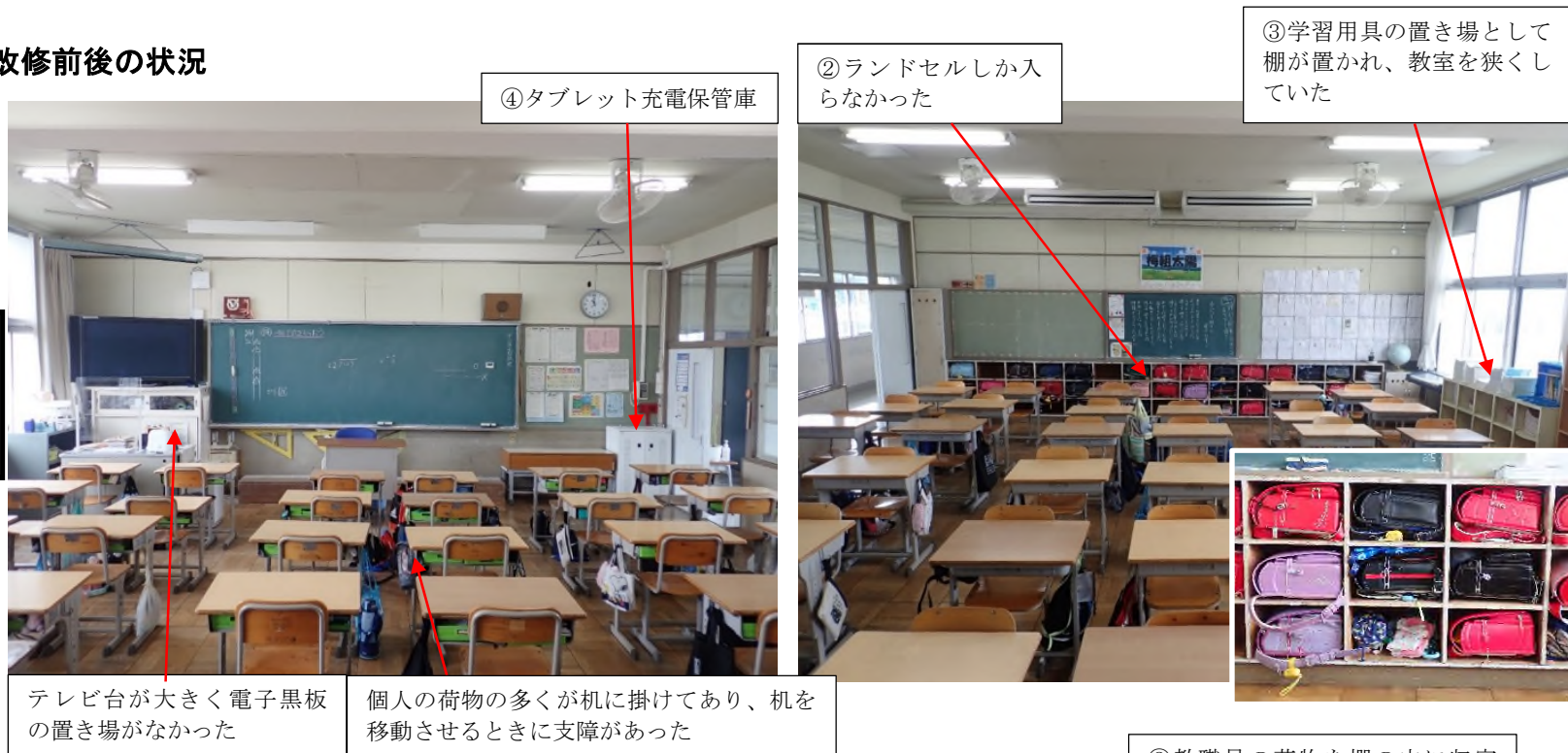
未来の教室整備（大規模改修工事における普通教室）の実施状況（大樹寺小学校）

1. 既存設備からの主な変更内容

- ①黒板のホワイトボード化
- ②ロッカーの大型化
- ③テレビ台を撤去し、ロッカーの上に教職員用の棚を設置
- ④タブレット充電保管庫の設置場所の変更
- ⑤教室や廊下の木質化

2. 改修前後の状況

改修前



改修後

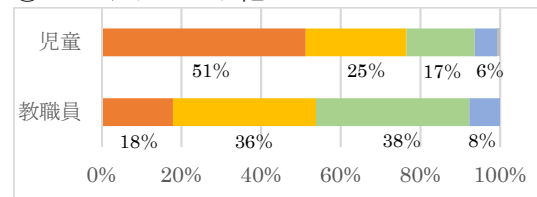


3. アンケートの実施

改修した普通教室について、児童・教職員に 5 段階評価で調査を行った。
アンケート期間 11 月 27 日（水）～12 月 10 日（火）
アンケート対象人数 児童 188 人（5 年生、6 年生）、教職員 42 人
回答人数 児童 158 人、教職員 39 人

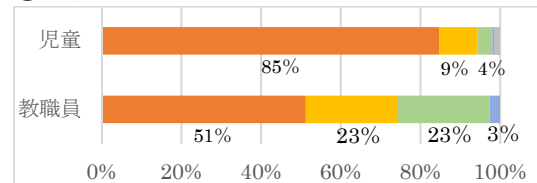
回答結果

①ホワイトボード化について



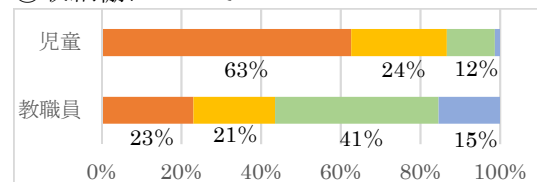
- ・見やすい、書きやすい
- ・ひっかき音がなくて良い
- ・手荒れが減った
- ・消えにくい、文字跡が残る
- ・学校感がなくなった。
- ・見えにくい

②ロッカーについて



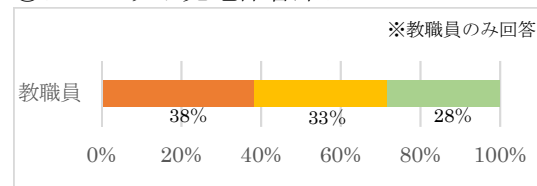
- ・ランドセル以外の物が入って良い
- ・物がたくさんしまえる
- ・入れやすくなった
- ・整理しにくい

③収納棚について



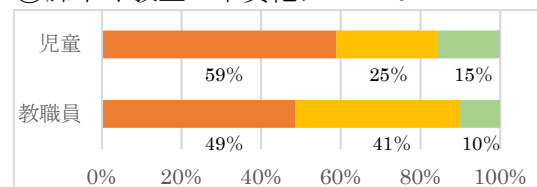
- ・教室がスッキリする
- ・机を移動させやすくなった
- ・整理整頓ができるようになった
- ・高すぎて手が届かない
- ・背面掲示がしにくい

④タブレット充電保管庫について



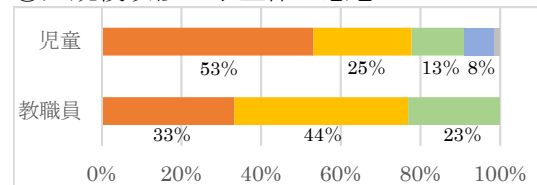
- ・教室がきれいになりよい
- ・出入口がスッキリした
- ・動線的に良い場所にある

⑤廊下や教室の木質化について



- ・清潔感があってよい
- ・明るく柔らかい感じがよい
- ・勉強に集中できる
- ・古い感じが無くなり寂しい

⑥大規模改修工事全体の感想について



- ・使いやすくなった
- ・学校生活がもっと楽しくなった
- ・明るくなって良い
- ・工事の音がうるさかった
- ・仮設校舎が設置され、運動場が狭くて残念だった
- ・児童教員に引越で負担があった

4. 現在の大規模改修の進捗

令和 2 年度に策定した岡崎市小中学校施設長寿命化計画において、令和 12 年度までに改修を計画しているのは 25 校 33 棟であるが、令和 6 年度時点でモデルとして実施した竜谷小学校を含め、3 校 7 棟が完了し、2 校 2 棟が工事中となっている。

未来の教室整備（大規模改修工事における普通教室）の実施状況（甲山中学校）

1. 報告の趣旨

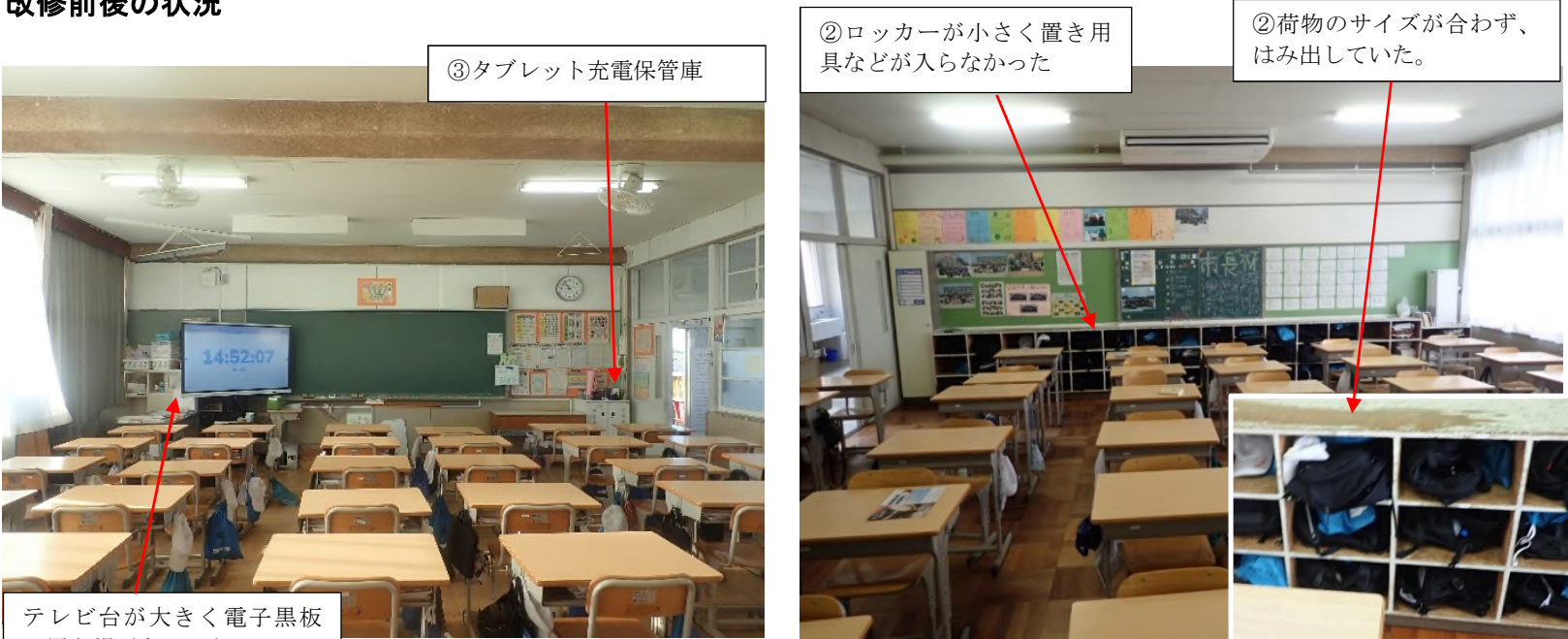
施設の老朽化対策として、建築年度の古い校舎から順次大規模改修工事を行い、これまで実施していなかった内部改修（床、壁、照明器具、設備配管等）を実施するほか、チーム学習時における教室の利用形態への対応やICT環境の整備等、近年の教育環境の変化を踏まえた新たな普通教室の整備を始めた。実施した整備内容について今後の方向性を検討したため、報告するものである。

2. 既存の設備からの主な変更内容

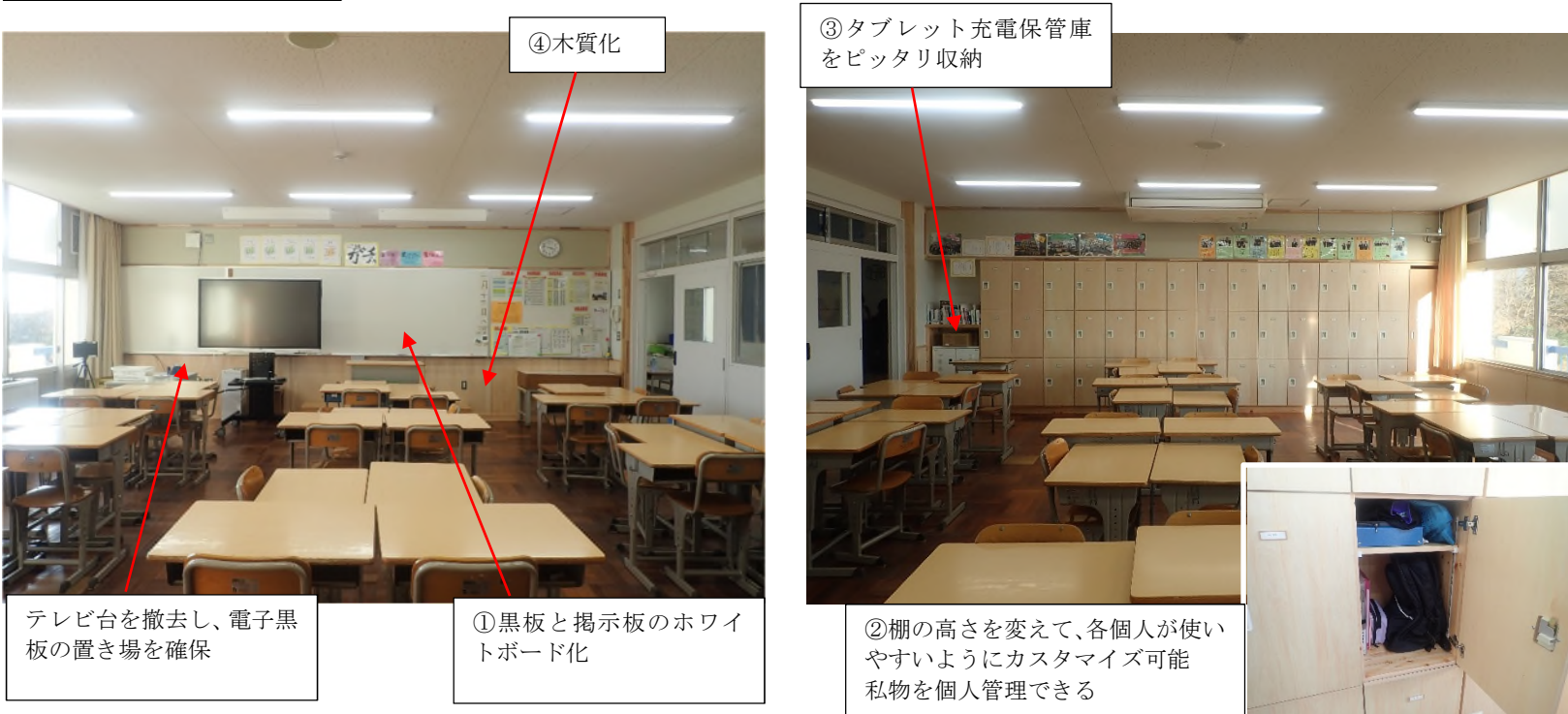
- ①黒板のホワイトボード化
- ②ロッカーの大型化、扉の設置
- ③タブレット充電保管庫の設置場所の変更
- ④教室や廊下の木質化

3. 改修前後の状況

改修前

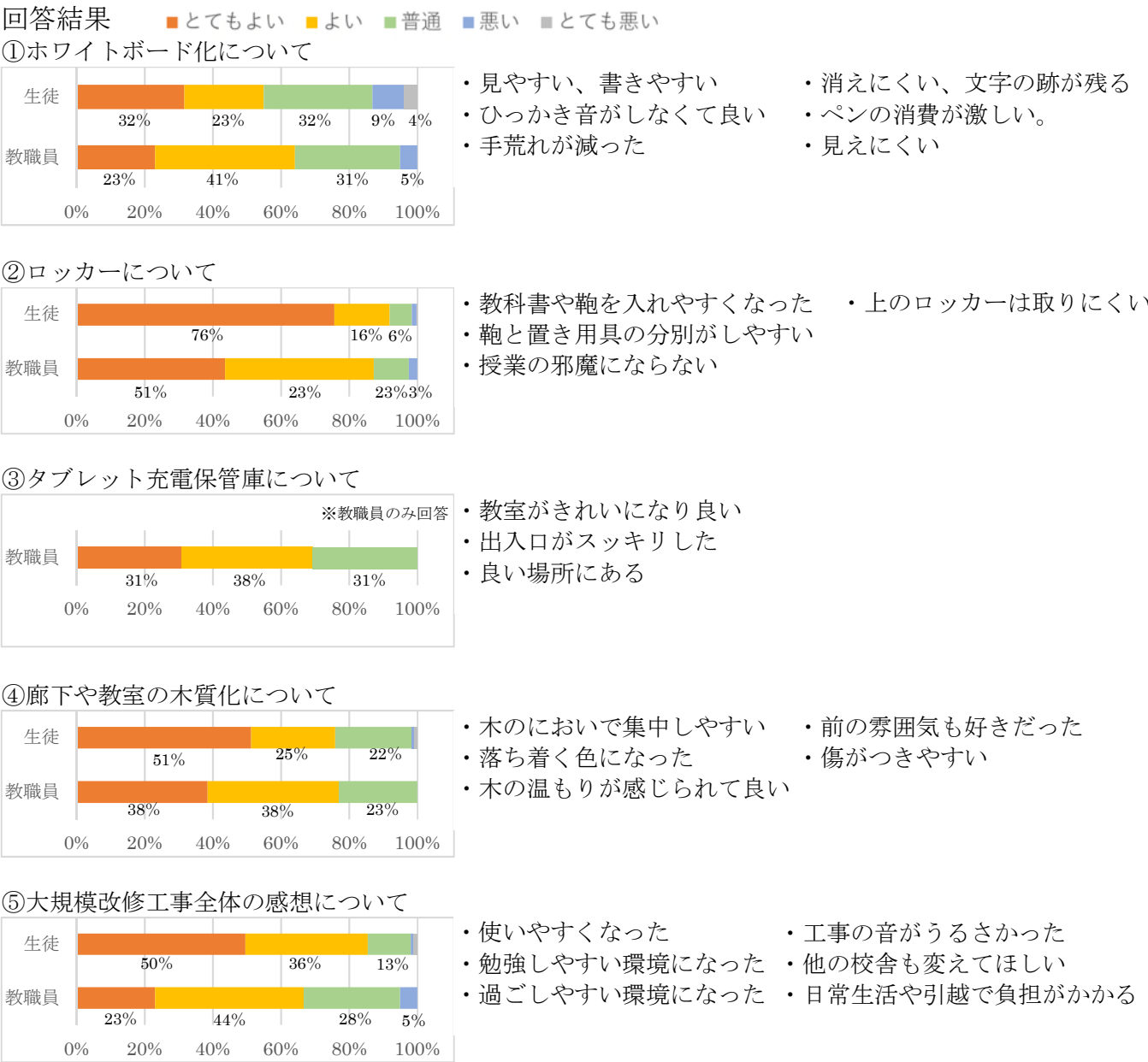


改修後



4. アンケートの実施

改修した普通教室について、生徒・教職員に5段階評価で調査を行った。
アンケート期間 11月27日（水）～12月10日（火）
アンケート対象人数 生徒488人（2年生、3年生）、教職員52人
回答人数 生徒357人、教職員39人



5. 現在の大規模改修工事の進捗

令和2年度に策定した岡崎市小中学校施設長寿命化計画において、令和12年度までに改修を計画している校数及び棟数は9校13棟であり、令和6年度末時点で完了が1校1棟、工事中が1校1棟となっている。